

第34回中国文化セミナー開催報告

日時：2016年3月1日（火）

場所：中国茶房8 赤坂店

講師：王文強先生

参加人数：18社、33名

「中国文化セミナー」は、日頃中国ビジネスに関与されています皆様、普段とは少し違った視点から中国をご理解いただくことができるよう、中国の文化・伝統・習慣や生活などについて紹介をし、体験いただくことを提案しています。

今年は、中国伝統芸能の役者であり研究者である、王文強先生に「四川変面と中国伝統演劇」についての講義と「変面」の実演をいただきました。

中国伝統芸能の「絶技」と呼ばれる変面は、次々と一瞬で変わるお面で劇中の登場人物や心情の変化を表しており、その技の秘密は国家機密と言われています。現在では四川省を代表する伝統芸能として発展し、日本のTVやマスコミでも多く取り上げられています。

音楽と共に王先生が鮮やかな衣装を身にまといステージに登場され、音楽に合わせて踊りながら次々とお面が変わっていく様子が釘付けになりました。しかし、どんなに近くで見てもお面が変わる瞬間の仕組みはわかりません。王先生がステージからフロアに降りて参加者の方に顔を触らせて、その瞬間に顔が変わるというパフォーマンスのサービスまでありましたが、それでも全くわかりませんでした。



お面が次々と変わり、最後には王先生の素敵な笑顔が現れ、種も仕掛けも全くわからないまま変面ショーが終了しました。

<変面について>

不思議な変面ショーを鑑賞した後は、王先生より変面についての紹介をいただきました。

まず、王先生より「先程の変面ショーで私は何枚お面を変えたでしょうか？」という問いに、告げられた答えは「お面が9枚で私の顔を入れて10枚です。9枚か10枚と答えた方が正解です！」とユーモアあふれる回答がありました。

続いて、変面の起源や由来、変面の芸術的な発展や変化についてのお話、変面の種類についての紹介がありました。変面は芸術的なパフォーマンスとしてだけではなく、劇中の人物の心情などをお面を変える事により、更に具体的に観客に伝えることができる手段であり、そして変面の秘密を守るための厳しいルールと、中国伝統芸能を伝えていく意味の深さについてもお話いただきました。

<中国戯曲の歴史について>

初めに中国戯曲の歴史的な起源や儀式性との関係について紹介があり、その後、唐、宋、元、明、清朝等の時代を経て、完成系に近い戯曲芸術になった経過について解説いただきました。

また、中国・朝鮮半島等を経て日本に伝えられた伝統的芸術「舞楽」についてビデオ上映による紹介をいただきました。日本のお正月に広島県の宮島で舞楽を観劇したお話や、舞楽が元々は中国の唐朝を起点に朝鮮半島に伝わり、そして日本に伝わった歴史の紹介がありました。今、中国では舞楽は無くなってしまっているので、チャンスがあれば舞楽をもう一度中国で上演したいという夢もお話されました。



<黄梅劇 (おうばいげき) について>

現在の中国にある様々な地方劇についての紹介があり、王先生の出身地の安徽省の黄梅劇について詳しく紹介がありました。黄梅劇の役柄や、道具の役割等について実践を交えながら紹介した後、参加者の方と一緒に、中国の戯曲道具を使った戯曲体験をしました。

中国戯曲の仕草を勉強すると、姿勢が良くなるそうです。2人の方に戯曲体験をしていただきました。感想を聞いたところ、「見ているととても優雅な動きですが、実際にやってみると筋肉が震えて身体が鍛えられると思った」「背筋が伸びていないと出来ない動作なので、体幹が鍛えられる感じがした」というものでした。

<講師プロフィール>

- ◆ 中国安徽省生まれ。
- ◆ 13歳より中国安徽省の地方劇である黄梅劇を学び、4年間の刻苦する訓練を経て、安徽省銅陵市芸術劇院で黄梅劇の役者を務める。その後、香港、日本、韓国各地などで文化交流・演出活動を行う。
- ◆ 2009年に国立中国戯曲学院入学。戯曲監督学科を専攻し、戯曲の創作方法や監督手法を学ぶ。自身が演出と主演を務めた戯曲作品『秀才と劊子手 (首切り役人)』では、「第八回中国戯劇文化賞演技金賞、監督賞」を受賞した。
- ◆ 2014年に来日し、大阪の摂南大学にて中国戯曲と日本歌舞伎の比較について研究をする傍ら、日本各地で中国伝統演劇を伝える為の公演活動を行う。

中国文化セミナーの詳細は、会報誌「日中建協 NEWS」No.221号(5・6月号)に記載しています。